

V137a SKA プロジェクトに向けた科学検討6

町田真美, 赤堀卓也, 廣田朋也, 山下一芳, 吉浦伸太郎, 藏原昂平 (国立天文台), 高橋慶太郎 (熊本大学),
ほか国立天文台水沢 VLBI 観測所 SKA1 検討グループ

SKA プロジェクトに向けた科学検討の進捗を報告する。科学関連では、国際的には宇宙再電離 (EoR) をテーマとしたデータチャレンジ (SDC3) の企画が進んだ。まず前景の除去を課題とした SDC3a が本予稿提出時点でいよいよ実施の段階にある。日本からも EoR 科学検討班のメンバーを中心に構成される日本チームが参加を申し込んだ。チャレンジは 2023 年中盤まで続けられる予定である。結果の解釈を課題とした SDC3b は、2023 年中盤以降に実施予定である。およそ 1.5 年おきに実施される SKA の国際会議に関しては、2023 年 5 月に SKA-ngVLA 研究会としてカナダ・バンクーバーで開催の準備が進んでいる。国内では、SKA に関連する研究業績・資金獲得・学生輩出は引き続き維持ないし増加傾向にある。今年度は特に、査読誌特集号への論文投稿を目標に、各自の SKA 関連研究を大きく推し進めた。

SRC 関連では、今年度より SKA1 グループ内に SRC (SKA Regional Centre) 部門を新設し、日本の SRC ノード (JP-SRC) の開発を始動した。JP-SRC は国立天文台と国内大学研究機関のサーバーとを結合した新時代のクラウドシステムを目指す。システムの試作初号機が完成し、試作 2 号機の開発が進んでいる。国際的な SRC の試作活動チームにも本格的に参加し、国際 SRC 分散ファイル管理ネットワークの試作に参加を果たした。ソフト開発・ユーザー支援面では、ソフトの共同開発環境の提供に向けた初期調査を進めている。